

そよかぜだより

第103号
発行 2010.12.19
毎月1回発行
社会福祉法人
そよかぜ

改正障害者自立支援法が成立

ただし新法実施までのつなぎ

改正障害者自立支援法が12月3日に成立しました。臨時国会は混乱が続き、法案は11月18日に衆議院を通過していましたが、参議院で審議するめどはついていなかったのですが、国会最終日の3日に参院の厚生労働委員会と本会議でそれぞれ採決する段取りが、土壇場の2日に決まりました。

自立支援法を巡っては、政府が進める障害者制度改革の重要課題の一つとされ、「自立支援法は廃止」「障害者総合福祉法(仮称)の法案を12年に国会提出し、13年8月までに実施」とすでに閣議決定されています。こうした到達点が決まっているため、改正法は「障害保健福祉施策を見直すまでの間において地

域生活を支援するための法律」とされています。

主な改正点は

- ▽利用者負担の見直し
利用者負担の原則を家計の負担能力に応じたもの(応能負担)とし、サービス利用量が少なく、1割負担の方が低い場合は1割とする。
- ▽障害者の範囲の見直し
発達障害者が含まれることを明確化する。
- ▽障害児支援の強化
放課後等デイサービスを創設(特例で20歳まで利用可)
- ▽地域での自立生活支援
グループホーム・ケアホーム入居者への助成を創設
- ▽成年後見制度
成年後見制度利用支援事業を市町村の必須事業に

「やっと成立した」と改正を喜ぶ声明を発表しました。ただ福祉現場から「12年に新法の法案提出、13年実施」という期限からみて、短い期間に混乱を招くと懸念する声も出ています。

そよかぜ各事業の 年末年始休業予定

事務局	12月29日～1月4日
ひばり園	12月29日～1月5日
スマイル工房	12月28日～1月4日
つくしの家	12月29日～1月4日
くれよん	12月29日～1月4日
エール	12月29日～1月4日

これらに対して全日本手をつなぐ育成会、日本知的障害者福祉協会などの福祉団体は

連絡先

ひばり園	578-0855
FAX	578-0466
くれよん	578-2575
つくしの家	578-0855
エール	570-1233
スマイル工房	578-2723

資源回収時のご連絡は「ひばり園」へ

社会福祉法人 そよかぜの

《資源回収》に

ご協力をお願いします
新聞、雑誌、ダンボール
(ボロは扱っていません)

11月は17,170tでした。金額は281,295円となりました。
この収益は、社会福祉法人そよかぜの運営資金になります。
みなさまのご協力ありがとうございました。

1月は第3日曜日16日です。

ご協力ありがとうございました。 11月の募金 73,257円
(順不同) 平成22年4月～11月の合計 345,368円

加部 妙子 様	帯刀 幸子 様	とまと美容室 様
宮本 佐一 様	田村 義明 様	田口 尚子 様
宮本 文江 様	佐藤 佐夫 様	臼井 道代 様
宇津木 牧夫 様	村野 理子 様	天満 喜代子 様
井上 誠一 様	北野 浩美 様	大野 元雄 様
清水 賢 様	古沢 奈保美 様	森田 勝 様
清水 知子 様	濱野 岬 様	袴田 実 様
山下 暉枝 様	竹内 照夫 様	山崎 六雄 様
田村 由親子 様	大内 たま子 様	橋本 亜紀子 様
田村 千佳 様	阿部 郁子 様	関村 理 様
清水 キヨ子 様	長谷川 キヌ子 様	関村 英希 様
尾又 恭子 様	角野 克子 様	角野 満壽子 様
松岡 竹子 様	川崎 利男 様	本間 正彦 様
下田 コウ 様	田中 稔 様	平岡 知子 様
小沢 達子 様	吉野 満里子 様	桜沢 喜作 様
土屋 三枝子 様	渡辺 四郎 様	山影 幸子 様
斉藤 忠 様	ア-サロンカワノ 様	大野 素子 様
平野 喜子 様	田中 明子 様	ア-バンベンディックス 様
櫛八洋 様	匿名様(28,250円)	

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市栄町3-3-1
042-578-0855
くれよん11月の売上げ
848,240円
産業祭 197,885円でした。

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さいます。ありがとうございます。

ひばり園には「いじめ」はありません

学校ではなく一般社会と同じです

多種多様な人が混在して、いじめより助け合い

小学校六年生の女の子が自殺したとか、中学二年生の男の子が自殺したなど、痛ましい事件が最近とくに多いようです。子供が自殺することなど、昔は考えられないことでしたが、いまではこの種の事件があまりにも多いためか、当たり前のように報道されています。

生活苦や職業上の悩みで自殺するのは大人がすること、子供が自殺する原因は、ほとんどすべてが「学校内でのいじめ」です。いま全国の学校には、いじめが常態化しているといわれています。自殺事件でもあれば表面化しますが、学校内で処理されて表面化しないものまで含めると、いじめのない学校はないそうです。「わが校には、いじめはありません」と先生が取材記者に公言していた学校で、半年後に女生徒が自殺したこともあったそうです。

昔もいじめはありましたが、ガキ大将がいたずらをする程度で、いまのように複数の生徒が特定の一人に狙いを定めて、長期間にわたっていじめを繰り返すような陰湿なものはありませんでした。なぜ今はいじめは子供を死に追い込むほどひどいものになったのでしょうか。その理由について、いじめ問題の専門家・内藤朝雄氏は次のように解説しています（「いじめの構造」講談社現代新書）。

「彼らはいじめに駆り立てるエネルギーは『仲間内のノリ』である。ノリながらやるのであれば、何でもゆるされる。いじめられた生徒が自殺しても、加害生徒たちは『遊んだだけよ』とか『かつこい』と拍手する。なぜそんなに恐ろしいことになるのか、その原因は学校の聖域性にある。たとえば、路上で誰かが誰かを殴っているのを見たら、警

察に通報するのが当たり前である。しかし、学校の友達や先生から暴行などの被害を受けたら、それを目撃したりしたとき、学校の頭越しに警察に通報すれば、校内のみならず近隣で非難されるのは加害者ではなく被害者や目撃者の方である。学校を守れ、先生を守れ、という父兄の有志を中心に近隣の人々が遺族にいやがらせを繰り返すこともある。学校という閉鎖空間においては人々は正気を保つことができないのだ」。学校を聖域として閉鎖空間にすることがいじめの根本原因である、と内藤氏はいつています。それでは、ひばり園はどうでしょうか。ひばり園には、いじめはありません。しかし、聖域とか閉鎖空間という言葉から連想すれば、ひばり園も一般社会から見れば、学校に負けないほど「特殊な空間」ではないでしょうか。障害者が行くところ、普通ではない人が集まるところとして、なんとなく近寄りたく、はれものに触るような気持ちで見ている人も多いのではないのでしょうか。もしそうだとすれ

ば、ひばり園にも学校と同じような、いじめがあっても不思議ではないことになり。まして知的障害者の入所施設における虐待事件は決してまねではありません。それでもひばり園にいじめがないのはなぜでしょうか。職員の資質の問題はもちろんありますが、それよりもっと施設として、根本的な理由があるように思っています。

ひばり園を見学された人は仕事をしている利用者を見て、老年に近い人から、今年、特別支援学校を卒業してきた人まで大きな年齢差があることが、ひと目でわかると思います。そして実は年齢以上に大きな差があるのが能力差です。たとえば作業能力では、職員が本気でやっても勝てない人もいれば、その人の十分の一さえ覚えない人もいます。一般の会社の従業員でも、できる人とできない人の差はあるでしょうが、その差はせいぜい一割か二割程度で、十倍以上の差などありえないでしょう。ひばり園では、大人と子どもを比べるような差があるのです。作業以外の能力でも同じです。知的な障害のない身体障害の人は職員と対等に会話ができますが、知的に重度の人は、簡単な日常会話も不自由です。

学校の生徒がいじめに走るのには、仲間のノリでワーッと盛り上がり、前後のみさかいがなくなるせいですが、それは周囲に同じような仲間がいるからです。学校の中でも成績のよい子とわるい子の差はあるでしょうが、ひばり園にある大人と子どものような大きな差はないでしょう。年齢はもちろん同じです。

ひばり園は、大勢の利用者が通い、一つ屋根の下で同じような仕事をしているので、一見すると学校に似たような場所に見えるかもしれませんが、しかしその中身は多種多様な人材が混在していて「学校的」ではなく一般社会に近い空間なのです。ノリが生まれるには周囲に「同質」の仲間が必要ですが、ひばり園では周囲に同質どころか、あまりにも「異質」な仲間が多すぎてノリが生まれる余地がありません。

ひばり園で能力の高い者が、低い者はいじめようと思えばこれほど簡単なことはありません。あまりにも簡単過ぎていじめ甲斐がないでしょう。またいじめられる方にしても、自分がいじめられているとは思わず、関わってもらって喜ぶかもしれません。いじめても効果がなければ、いじめる気にはなりません。いじめるよりも、教えてあげる、助けてあげる対象なのです。「ああー、しょうがないなあー」などと口ではいいながら低い人の面倒をみてあげるとき、高い人の表情はなんとなくうれしそうです。人を助ける喜びと、自分も人の役に立っているのだという満足感を心の中で感じるからでしょう。

生徒が自殺するのは、もう逃げ場がないと思いつめていいます。もし今、思いつめている生徒がいれば、ためにしに短期間でもひばり園で実習してみてもどうでしょうか。学校の外には違う世界があることが身に沁みて分かり、希望がでてくるのではないのでしょうか。子供の自殺が多発する社会は、普通ではなく異常な社会ですから。